

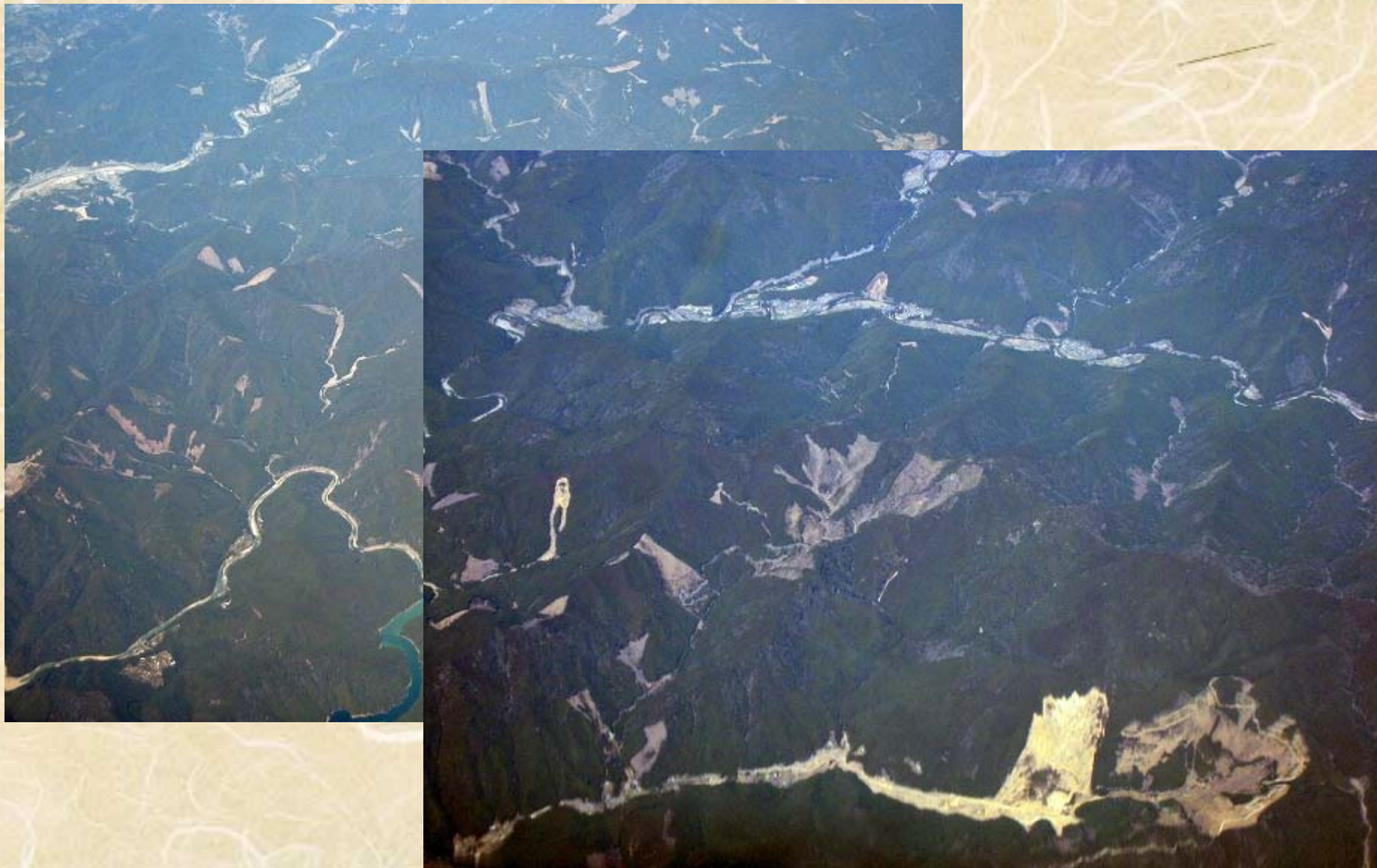
森林を破壊しない持続的な 木質バイオマス利用を



**危険！大量生産・大量消費型
の大規模木質バイオマス発電**

NPO法人土佐の森・救援隊 中嶋健造

紀伊半島のハゲ山群



皆伐がもたらす土砂流出(災害)



川は



海へも



FITの買取価格と規模の問題点(木質バイオマス発電)

- 「未利用の間伐材・林地残材」= 33.6円
 - ・原木買取価格: 1~1.5万円/m³の可能性
 - ・未利用の間伐材 = 熱利用材、パルプ材、合板・集成材、建築用材と競合する
- 規模の制限なし(大規模への誘導)
 - ・1箇所にて大量木材消費が発生し、大量生産を誘発



大規模な木質バイオマス発電は

木材産業破壊・森林環境破壊誘発の可能性大

大量生産・大量消費型の大規模木質バイオマス発電は地域の木材産業破壊の恐れ

- 「未利用材」であるから木材産業とは競合しないの誤り → 未利用材は既存産業と確実に競合する
- 「林地残材」は間伐・皆伐双方で、大量に発生する
- 熱利用材・パルプ用材・合板用材・建築用材より買取価格の高い「未利用材」「林地残材」が発生する
- そうなると、間伐された材は全て「未利用材」となり、皆伐された材のほとんどが「林地残材」となる
- 現在の建築用材のほとんどが間伐材、そうなると建築用材は皆伐して確保するしかなくなる。パルプ、合板等も同様
- パルプチップ業者が発電チップ業者に変身の可能性

5千kwhや1万kwhは大規模

- 5千kwh = 10万m³ / 年 = 333ha皆伐分
- 1万kwh = 20万m³ / 年 = 666ha皆伐分
- 間伐で対応すると、その3倍の面積
- この使用材量、面積とも持続可能なものではない
- **木材産業との競合、森林環境破壊に直結**

地域の木材産業は大混乱、 荒い間伐・皆伐(ハゲ山)増発による 森林環境破壊につながる

儲かるのは発電事業者や大規模資本では、都市部の企業が地域を利用するという、これまでの繰り返しに

**FITに先行し
大量生産・大量消費型の
国策「森林・林業再生プラン」
がもたらしている「悪しき林業」**

**高性能林業機械導入とプランによ
る大規模への誘導で7～8割間伐
が横行、さらに皆伐もセットに**

間伐施業では



作業道はこんなものに



九州のハゲ山(大規模皆伐)

